

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 10月稚魚調査 速報

●実施状況

令和2年10月2日に稚魚調査を実施した。天気は快晴で、気温は21.8～24.8℃、風は東寄り0.5～4.0m/sであった。調査当日は大潮で、干潮は11時18分、満潮は17時21分であった(気象庁のデータ)。

干潟を利用する魚種は8月に比べ減少した(成長とともに沖へ移動)。また、お台場海浜公園と城南大橋では、夏季を中心に出現するシロギスの稚魚が確認された。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:15-9:59	10:22-11:25	12:15-13:42
水温(℃)	21.4	23.9	24.4
塩分(-)	20.0	15.2	15.2
透視度(cm)	100>	65.0	65.0
DO(mg/L)	5.3	7.1	7.7
DO飽和度(%)	66.8	91.6	100.0
波浪(m)	0.1	0.2	0.2
pH(-)	7.5	7.4	7.9
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	日光浴や散歩など4名が渚を利用していた。	干潟の面積は今期最も狭かった。	汀線付近では、多くのカワウやウミネコが休息していた。

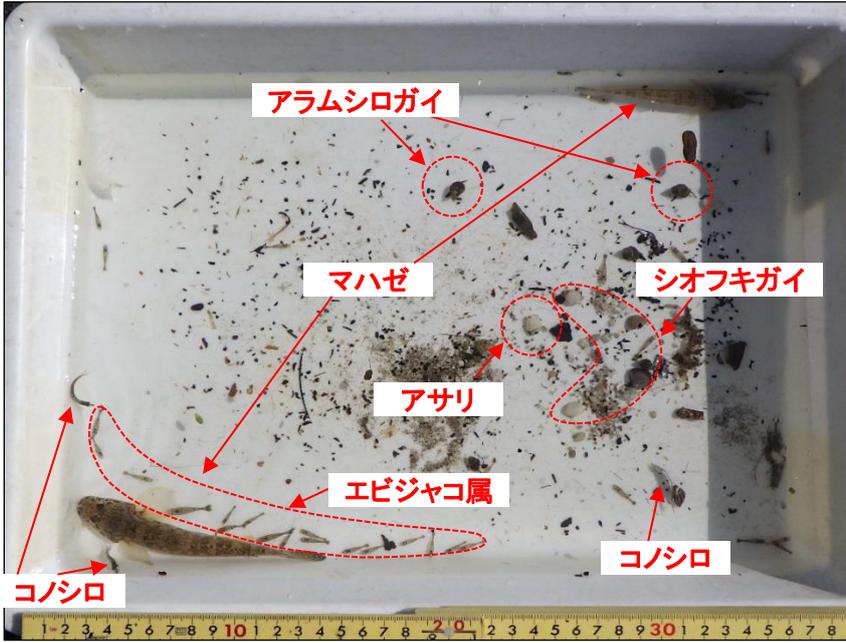
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	コノシロ(r)	シロギス(c)	コノシロ(c)
	マハゼ(r)	コノシロ(r)	ヒモハゼ(r)
		ヒメハゼ(r)	
		アカエイ(r)	
魚類以外	エビジャコ属(c)	ニホンイサザアミ(G)	ニホンイサザアミ(G)
	アラムシロガイ(+)	エビジャコ属(r)	シラタエビ(+)
	シオフキガイ(r)		エビジャコ(+)
	アサリ(r)		
備考	大型のマハゼが目視で多数確認されたほか、コヒキやマゴチも目視で確認された。		

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジのたもとにある人工の渚。調査時は透明度が高く、魚影などははっきりと目視で確認できた。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾を代表する魚の一つで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でもみられる。



東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深い場所へと移動する。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに逞猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。



内湾の干潟に生息する巻貝である。死んだ生物の肉を食べる(腐肉食性)ことから『海の掃除屋』などと呼ばれている。

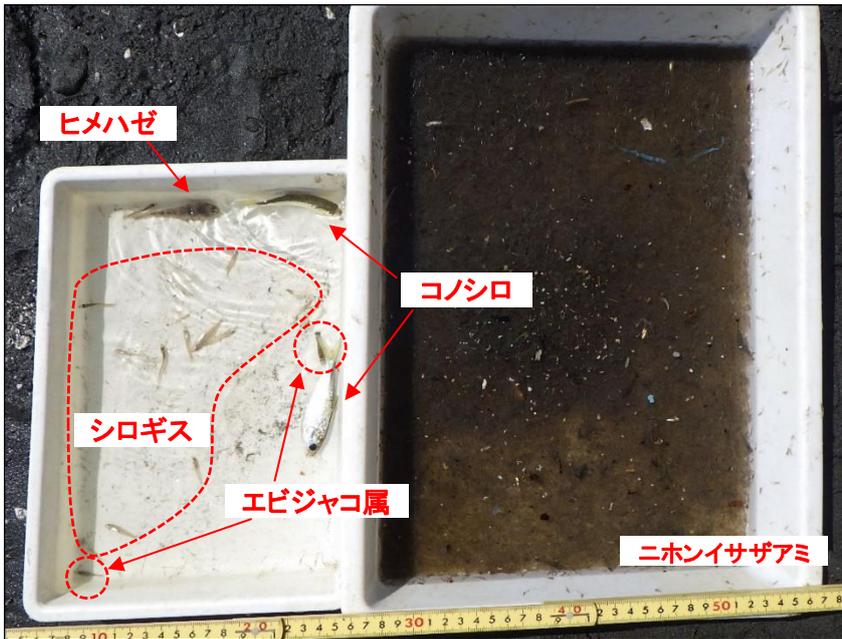


殻長 5cm 程になる、内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。



潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストが強いものが多い。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
干潟の面積は今期で最も狭かった。
北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



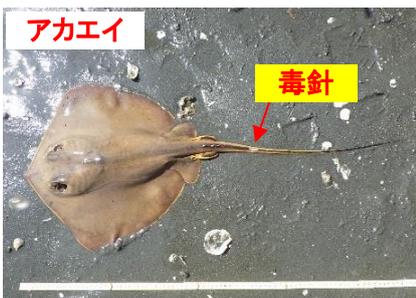
「鱧(きす)」としておなじみの魚。東京湾では、湾奥から外湾にかけての砂浜などで多くみられ、稚魚は動物プランクトンを食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る。産卵期は5～10月。



※解説はお台場海浜公園を参照



全長 9cm 程になる。内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。

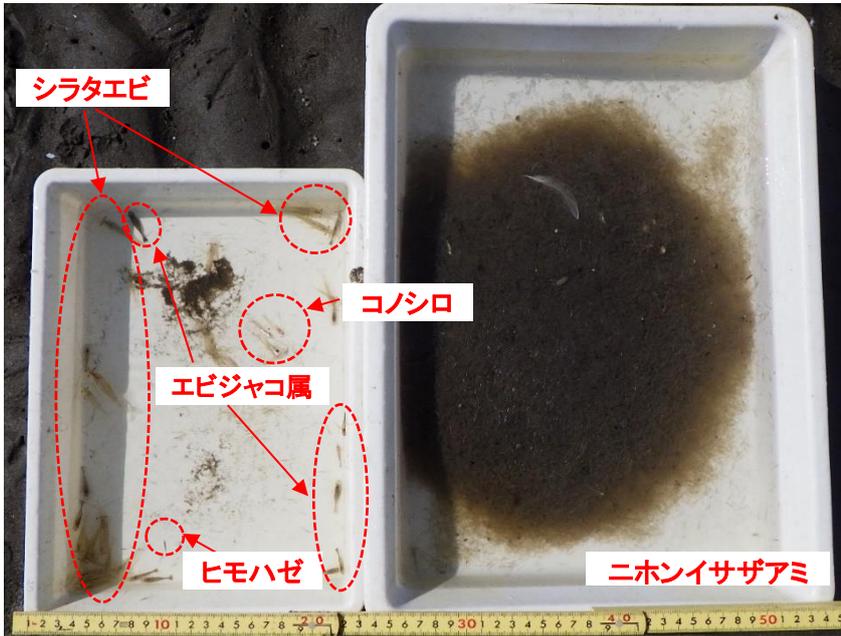


沿岸の砂泥底に多く生息。砂泥中を掘り返すように泳ぎ、貝類などを捕食する。お台場海浜公園や葛西人工渚でも本種や本種の摂餌痕が多数確認されるが、尾の背面には鋭い毒針を持ち、刺傷による死亡例もあるなど大変危険。本調査では毎回、本種を踏みつけるなどして刺されることがないよう、細心の注意を要している。本個体は全長 99cm、体盤長(尾部を除く体長)38.5cm、体重 3.05kg のオスであった。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。ラムサール条約登録地でもあり、一般の立入りは禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1目盛:1mm



※解説はお台場海浜公園を参照



河口域や潟湖の干潟域に生息する。体はミズのように細長い。アナジャコなどの甲殻類の巣穴を産卵場所や隠れ家として利用する。



※解説は城南大橋を参照



スズエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。汽水域に生息しており、触角が青いことで他種と簡単に見分けられる。額角(がつかく:頭の上面のトゲ)がトサカ状に盛り上がる。



※解説はお台場海浜公園を参照
環境に応じて色を変化させる。

